

赤煉瓦倶楽部舞鶴									
会報 117 号 令和4年(2022年) 1月15 日									
「赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ http://www.redbrick.jp/									

赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報									
発行人/会 長 吉 岡 博 之									
編集人/ 小 野 章									
〒625-0062 舞鶴市森973 番地の1									
FAX/0773-63-9764									
E-mail brick7388@yahoo.co.jp									

目 次

1. 舞鶴海軍鎮守府開庁 120 年を回顧する	6. 鎮守府ゆかりのテーマで企画展等を開催
2. 鎮守府開庁 120 年記念シンポジウム	7. 肉じゃがなど海軍グルメで PR
3. 鎮守府開庁 120 年特別企画展	8. 日本ハリストス正教会関係の建築について
4. 東郷隆仁に記念植樹とモニュメント設置	9. まいづる海軍がっこうぐらし!
5. 海軍食など記念 3 講座開催	編集後記

1. 海軍舞鶴鎮守府開庁 120 年を回顧する

会長・理事 吉岡 博之 (以下 4 まで)

“赤れんがのまち”として全国的に定着した感のある舞鶴市。日本の歴史をひも解くと、単なる地方都市にとどまらない、現在に繋がる国防という大きな役割を担ってきた「軍港都市」舞鶴の姿が見えてきます。我が国は、江戸時代末の開国以来、欧米諸国に対抗するために富国強兵のスローガンのもと、産業と軍備の近代化に努め、明治17年に横須賀鎮守府、ついで明治22年に呉と佐世保に鎮守府を開設、明治27・28年の日清戦争を経て、明治34年(1901)10月1日、日本海側で唯一の舞鶴鎮守府が開庁しました。以来、120年を迎えた令和3年(2021年)秋には官民挙げて様々な記念行事が開催されました。

初代内閣総理大臣で枢密院議長だった伊藤博文は、「鎮守府の配置ノ理由及目的」(「秘書類纂 兵制資料」)の中で、ロシアに対する戦略上の理由、つまりロシア艦隊がウラジオストク港を拠点に日本海を蹂躪し、若狭湾に上陸して本州を分断されること防ぐため、舞鶴に鎮守府を置いてわが国を防御する必要があると記しています。

若狭湾から奥深く入り込んだ天然の良港である舞鶴湾は、周囲を高い山に囲まれて防衛に易く、湾口の幅、湾内の広さ、水深とも艦隊の停泊に申し分なく、様々な鎮守府諸施設を展開するための土地と鎮守府を支える新しい都市を造成するための十分な土地があり

ました。鎮守府の施設は余部下・長浜地区から北吸・浜地区にかけて、鎮守府庁舎、工廠(造船所)、需品庫、武庫、水雷団、病院、水道が次々と建てられ、余部上・余部下・北吸・浜・溝尻各地区には田畑を埋め立て造成し、河川を付替えて道幅の広い格子状の街路など、国家プロジェクトとして新たな都市インフラが整備され、全国から事業者、商売人、職工、人々が集まりました。一方、田辺城の城下町だった西舞鶴も鉄道の開通によって市街地が拡大し西港の整備も進められたのです。

舞鶴鎮守府開庁120年を記念して、海軍舞鶴鎮守府開庁120年ロゴマークの決定、赤れんがパーク5号棟前芝生広場に「#MAIZURU」記念モニュメントを設置。フォトスポットとしてパーク来訪者が記念写真を撮ってSNSでシェアされています。また、商店街では海軍舞鶴鎮守府開庁120年のロゴを中央に入れ、オレンジと青のグラデーションで「近代の夜明け」「舞鶴湾の夕暮れ」を表現したフラッグが東舞鶴駅前、三条商店街、大門商店街に設置されました。また、10月11日、みなと舞鶴ちゃったまつり実行委員会(事務局:舞鶴商工会議所)が鎮守府開庁120年の節目を祝い、市民と事業者みなでコロナを乗り越えてまちを元気づけるために、東・西地区同時に花火が打ち上げられました。西地区での花火打ち上げは7年ぶりでした。



「開庁120年公式ロゴマーク」



「#MAIZURU のモニュメント」



「三条商店街の記念フラッグ」

2. 舞鶴鎮守府開庁120年記念シンポジウム

10月2日(土)午後、舞鶴市商工観光センターにおいて、舞鶴市主催、舞鶴商工会議所、海上自衛隊舞鶴地方総監部が共催して記念シンポジウムが開催されました。海上自衛隊舞鶴音楽隊によるオープニング演奏、続いて國學院大學教授・東京大学名誉教授で世界遺産登録を審査する国際記念物遺跡会議(イコモス)国内委員会前委員長の西村幸夫氏による記念講演がありました。西村氏は都市計画が専門で、私達が赤煉瓦倶楽部舞鶴を結成する契機となった1990年開催の赤煉瓦に関心を持つ個人と団体による初の全国大会「第1回赤煉瓦シンポジウムin まいづる」で記念講演をされて以来、舞鶴とは深い縁があります。講演では「20世紀の特殊計画都市としての舞鶴」と題し、2017年12月に日本イコモス国内委員会が「日本の20世紀遺産20選」に「舞鶴の海軍施設と都市

計画/生き続ける軍都の格子状街路と赤煉瓦の施設群」が選定された理由(下記注)、横須賀鎮守府、呉・佐世保鎮守府の軍港施設とそれを支える都市計画の反省を踏まえ、より理想的な20世紀の新しい軍港都市を目指したのが舞鶴鎮守府と中舞鶴・東舞鶴の都市計画であったと解説されました。講演後には多々見良三市長が30年間の取り組み状況を報告、パネルディスカッションでは日本観光振興協会総合研究所顧問の丁野 朗氏をコーディネーターに加えて「20世紀遺産を活かした未来のまちづくり」について話し合われました。〈注:選定の視点=代表性+保存状況/20世紀に新たに登場したもの=軍事施設と都市=舞鶴/人類の歴史の重要な段階を物語る建築様式、建築的または技術的な集合体の類型、景観に関する顕著な例であること〉



「舞鶴音楽隊の演奏」



「西村幸夫教授の記念講演」



「パネルディスカッション」

(写真は舞鶴市提供)

3. 舞鶴鎮守府開庁120年特別企画展 「鎮守府がやってきた！—海の地図と鎮守府と伊藤雋吉と—」開催

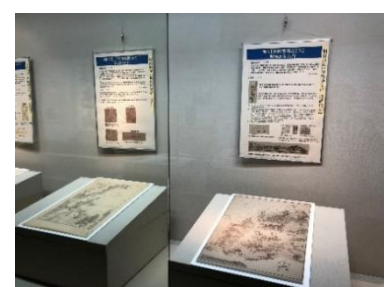
10月2日から31日まで、赤れんがパーク3号棟まいづる智恵蔵の企画展示室にて第八管区海上保安本部と舞鶴市郷土資料館が主催して特別企画展が開催されました。折しも2021年は伊藤雋吉の没後100年にあたり、オープニングには伊藤男爵のひ孫伊藤倫邦氏が来鶴されました。舞鶴鎮守府開庁までの経緯を鎮守府誘致に尽力した元田辺藩士で海軍次官(中將)の伊藤雋吉男爵や彼が係わった海軍水路局(現海上保安庁)の海図にスポットをあてて紹介。明治20年当時、鎮守府用地の買収は合意したものの買収金が支払われずに難儀していた地元民を見かねた伊藤が尽力して解決しました。西郷従道ら3代の海軍大臣を次官として9年間支えた伊藤は日清戦争の功績により男爵に叙せられましたが、舞鶴出身で爵位に叙せられたのは元藩主の牧野子爵と伊藤の二人だけです。舞鶴にとっての大恩人といえるでしょう。(左:伊藤雋吉肖像)



「男爵叙爵状」



「大聖寺(北吸)の鎮守山山号と鎮守府庁舎の木製レリーフ」



「海軍海図」

4. 東郷邸に記念植樹とモニュメント設置

9月26日には、舞鶴市から東郷平八郎ゆかりの「銀杏」と「月桂樹」が海上自衛隊舞鶴総監部に寄贈されて東郷邸で記念植樹が行われました。イチョウは明治政府が軍艦比叡を建造したイギリスに贈った際、留学中の東郷が宿舎に植えたもの、ゲッケイジュは栃木県足利市の足利学校孔子廟前に東郷が植えたもので、それぞれから挿し木した苗木が植えられました。また、市民有志から東郷揮毫の「皇国ノ興廃此ノ一戦ニ在リ・・・」を彫った碑が贈られました。



「東郷平八郎ゆかりの銀杏を植樹」



「月桂樹を植樹」



「皇国の興廃・・・石碑の寄贈」

(写真は舞鶴市提供)

5. 海軍食など記念の3講座を開催

理事 石原 雅章 (以下7まで)

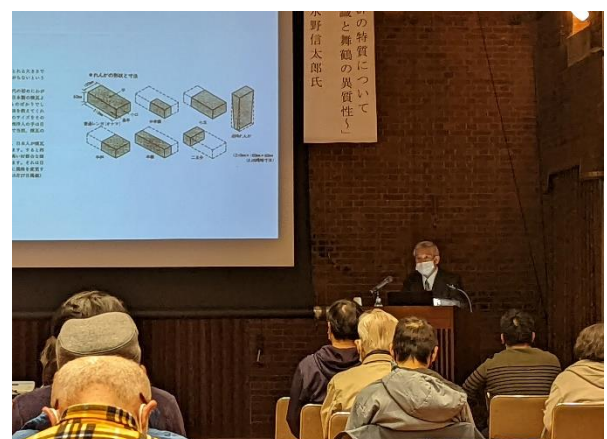
舞鶴市では、市民の皆さんに本市の歴史について理解を深めてもらうとともに、本市に残る近代化遺産などへの関心を高めるため、10月から12月にかけての3講座を赤れんがパークで開催しました。

- ・10/17「鳥瞰図画家吉田初三郎が見た鎮守府のまち」 京都府立大学准教授 上杉和央氏
- ・11/23「海軍の食と文化について」 海軍史・海軍料理研究家 高森直史氏
- ・12/4「舞鶴の赤れんが建造物群の特質について～世界の常識と舞鶴の異質性～」 北翔大学名誉教授 水野信太郎氏

水野先生の講座では、外観に赤れんがを顕わにした建物がある国は日本やイギリスなど少なく、また、日本は、れんが造りが少ない国ですが、その中で、舞鶴はれんが窯も含め良質なれんが建造物が市民の身近にある日本一のまちであると講演されました。



「海軍の食と文化について」高森直史氏



「舞鶴の赤れんが建造物群の特質について」水野信太郎氏

6. 舞鶴鎮守府ゆかりのテーマで記念企画展等を舞鶴市が開催

- ・10/1～24、11/12～30 赤れんが博物館企画展「舞鶴鎮守府をつくったれんが その故郷をたどる」

舞鶴鎮守府の建造物に使われたれんがの多くは大阪泉南地域で製造されており、岸和田煉瓦（株）や大阪窯業株などこの地域のれんが製造会社のほか、舞鶴市内の神崎ホフマン窯なども紹介。

- ・10/5～31 企画展「舞鶴艦（ふね）物語—技術とものづくり—」

舞鶴海軍工廠で使われた造船の道具や舞鶴市在住の石原健氏作画による舞鶴で建造・在籍した艦艇のペン画を展示する企画展が赤れんがパークで開催。

- ・11/6～29 企画展「舞鶴都市（まち）物語—古地図でみるまちの遷り変わり—」

舞鶴鎮守府開庁前後の東舞鶴・中舞鶴の古地図 17 点を展示し、現代の地図と比較して、まちの遷り変わりを実感いただく企画展を赤れんがパークで開催し、地図アプリを活用したスタンプラリーへの参加もPR。



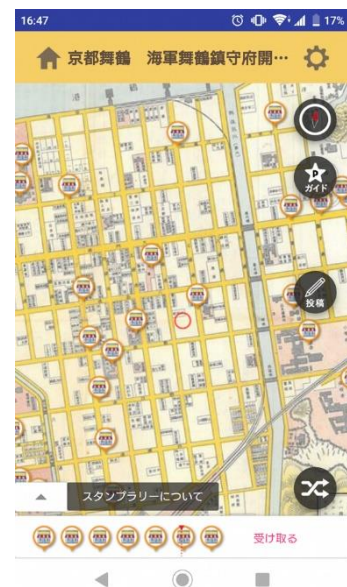
企画展「舞鶴鎮守府をつくったれんが その故郷をたどる」



企画展「舞鶴艦（ふね）物語—技術とものづくり—」



企画展「舞鶴都市（まち）物語—古地図でみるまちの遷り変わり—」



デジタルスタンプラリー

- ・古地図アプリで、軍艦通りデジタルスタンプラリー

120 年前の海軍舞鶴鎮守府設置に併せて整備された東舞鶴市街地の歴史ある街並みを歩いてみよう、6 月からスマートフォンの古地図アプリを使ってまち歩きが楽しめるデジタルスタンプラリーが開催されました。

7. 肉じゃがなど海軍グルメでPR

・「アレンジ肉じゃが」新メニュー誕生！

舞鶴市とまいづる肉じゃがまつり実行委員会では、海軍舞鶴鎮守府開庁 120 年を記念し、「肉じゃがアレンジアイデア」を募集したところ、肉じゃが発祥の地である舞鶴ならではのアイデアがたくさん集まりました。そのアイデアを参考にした「アレンジ肉じゃが」新メニューが、市内の飲食店で 7 品誕生しました。

・ローソン「舞鶴海軍カレーパン」発売

ローソンと舞鶴観光協会は、旧海軍料理教科書のレシピを参考にした「舞鶴海軍カレーパン」を 9 月に発売しました。舞鶴鎮守府開庁 120 年を記念し、舞鶴観光協会が監修したもので、近畿 2 府 4 県の 2400 店舗で、予想を上回る 14 万個が販売されました。

・大正の味、海軍ホットウキスキーを記念に販売

舞鶴観光協会とサントリー酒類は、大正時代の海軍の飲料を復刻した「海軍ホットウキスキー・カクテル」を市内の飲食店など 15 店舗で販売を始めました。スパイスの香りと砂糖の甘さを生かした「海軍レトロブレンド」など 3 種類。



アレンジ肉じゃが(アंकールド)



舞鶴海軍カレーパン



海軍ホットウキスキー

8. 日本ハリストス正教会関係の建築について

理事 小野 章

2021 年（令和 3 年）11 月 19 日国の文化審議会が京都ハリストス正教会「生神女（しょうしんじょ）福音聖堂」を国の重要文化財に指定するよう文部科学大臣に答申しました。21 年度中に告示予定。同福音堂は 1901 年（明治 34 年）京都市中京区に完工した教会堂で、現役の日本ハリストス正教会の木造聖堂としては最古のものです（旧石巻ハリストス正教会聖堂は 1880 年建立ですが、現役を退いています）。京都府庁日本館などを手掛けた建築家の松室重光がロシアの正教会から提供されたひな形を基に設計したとされます。

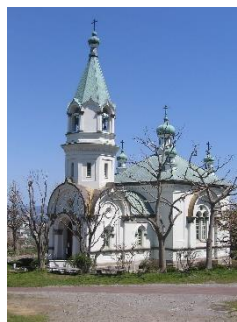
日本ハリストス正教会については、幕末の 1861 年に箱館のロシア領事館付司祭として修道司祭のニコライ・カサートキンが着任し布教を開始しました。彼は 1872 年東京に進出、1891 年には東京復活大聖堂（ニコライ堂、煉瓦及び石造）を建て布教の拠点にします。西日本での布教拠点として 1901 年京都ハリストス正教会聖堂が建立されますが、これはニコライ堂の次に古い現役の正教会建築です。正教会輔祭であった河村伊蔵は明治末から大正初めにかけて多くの教会建築を設計しました。彼の設計になる修善寺・豊橋・白河・函館などの聖堂は瀟洒なデザインが特徴で重要文化財などに指定されています。（「生神女」：一般に言う聖母マリア）



京都ハリストス正教会



ニコライ・カサートキン



函館ハリストス正教会



豊橋ハリストス正教会

(写真：Wikipedia)

舞鶴には軍港時代、新人の海軍軍人を養成する機関が二つありました。

セーラー服を着た新人水兵を養成する「舞鶴海兵団」と機関科士官を養成する「海軍機関学校」です。

「まいづる海軍がっこうぐらし!」ではその当時の新人軍人達の生活を紹介します。

○連載第1回目は海軍機関学校

海軍機関学校の学び舎にも新年が来ました。西暦は1942年から1943年へ。

新年、初めは始業式の一部として実施される「観兵式(かんべいしき)」と呼ばれるパレード。

現在の舞鶴地方総監部グラウンドに集結し、学校長から訓示を受けています。



編集後記

今号は、昨年実施された舞鶴海軍鎮守府開庁120年記念の諸事業について特集いたしました。執筆は事業実施に直接関わった理事にお願いしました。思えば、120年前に「海軍さん」が来てくれて東舞鶴市が形成され、海軍の働きかけで昭和18年5月27日の海記念日に舞鶴市との合併が行われ「大舞鶴市」が誕生するなど、当地は海軍と因縁の深い土地柄です。鎮守府開庁120年にあたり、今後も歴史の町「にし」と基地の町「ひがし」という二つの中心を持つ個性的なまちとして発展するよう祈ります。赤煉瓦倶楽部も多少の貢献ができればと存じます。

本会の目的(要旨): 赤煉瓦を活かしたまちづくり活動、赤煉瓦ネットワーク交流と他市のまちづくり支援など。

会員の資格: 会費納入者 年会費(個人1,000円、団体5,000円)。ご寄附も受け付けます。

会費・寄付等 振込先: ①ゆうちょ銀行 四四八店(ヨンヨンハチ店) 普通 3679505 口座名義 アカレンガクラブマイツル

又は ②京都北都信用金庫 舞鶴中央支店 普通 口座番号 0686767 口座名義 アカレンガクラブマイツル